

八尾市総合計画審議会 第2回未来・魅力部会 議事録

日時：平成30年11月27日（火）18時30分～20時30分

場所：八尾市役所8階 委員会室

出席者：

和泉委員（副部会長）、川崎委員、轉馬委員、中田委員、農野委員（部会長）、平野委員、増田委員、三島委員、水野委員、事務局

欠席者：

野村委員、吉田委員

1. 開会

事務局

ただいまより、八尾市総合計画審議会 第2回未来・魅力部会を始めます。

2. 議事

（1）八尾市第5次総合計画 後期基本計画 施策の審議について

農野部会長

本日は施策26からになります。前回同様、各施策についての総合評価と第6次総合計画に向けてご意見をいただき、議論したいと思います。

<施策26>

農野部会長

ご意見、ご質問をお願いします。

和泉副部会長

指標「高安山の自然環境保全活動の参加人数」が、平成28年に比べると平成29年、30年と急激に落ちていますが、何か要因があるのでしょうか。

事務局（産業政策課）

「高安山の自然環境保全活動の参加人数」は、みどり課と環境施設課が主体で行っている事業の中で、自然環境保全活動と高安の森自然楽校の参加人数を合計した人数です。平成28年度は、10年に1度広域的に実施する行事として、生駒・高安山花屏風ハイキングと題したイベントを開催したことから参加人数が突出しております。

和泉副部長

この指標は高安山に特化していますが、高安山に限らず、市内で他に自然に関する取り組みが行われているのであれば、数字に表れなくてもよいと思います。第6次総合計画に向けた提案ですが、自然がある地域として高安を上げるのは賛成ですが、市全体で自然的資源の保全を考えるのがよいと思います。例えば、今東光というコンテキストで八尾市の自然を扱うことも可能です。高安は自然的資源の保全の中心になると思いますが、広く自然をとらえて様々なコンテキストや場所で、八尾市の自然を考えていける総合計画になればよいと思います。

三島委員

「評価結果」の平成29年に「若い世代に自然と触れ合う機会を設ける」とありますが、具体的にどのような機会を設けたのか、それによって平成30年の参加人数が増えたなどの効果があったかどうかを教えてください。

事務局（産業政策課）

「総合評価」にも記載していますが、市民と事業者・行政による団体「環境アニメイテッドやお」が、自然環境を保全するリーダーを養成する高安の森自然楽校などの取り組みを行っています。その中で、子どもや若者などの次代の世代に自然に親しんでもらうことで、保全活動につなげていく人材育成の取り組みを行っています。その効果が平成30年度に分かる形で出てきているかと言うと、指標になるほどの効果はありませんが、参加人数を見ると、例年多くの人に参加していただいています。

農野部長

大阪南部の自然が豊かな市では、ボランティアが山の一部の保全に携わっていますが、ボランティアがどこまで山に関与できるかという問題があります。そのボランティアは地域の小学校と連携して、毎年小学5年生の子どもたちが山に入って、ボランティアに「森林を保全することで、どのようなメリットがあるか」を教えてもらったり、伐採林を使ったものを紹介してもらったりなど、継続的な教育が行われています。八尾市には、このような子どもや若者を巻き込んで継続的に活動する仕組みはありますか。

事務局（産業政策課）

「環境アニメイテッドやお」が取り組んでいる事業には、先ほどのリーダー養成の他に、ニッポンバラタナゴという希少な魚をため池で保全する活動があります。ニッポンバラタナゴは、木を伐採して管理しなければ、水の循環の影響で保全できなくなるため、子どもたちを巻き込んで保全活動を行っています。また、環境面では学校のビオトープを活用した環境教育を行っています。八尾市のごみの再資源化を行う八尾市立リサイクルセンター

学習プラザ「めぐる」に見学に行くなど、「環境アニメイテッドやお」を通じて、幅広い自然保全活動を行っています。

農野部会長

自然保全活動に関わるボランティア団体が今後どのくらい増えればよいのだろうと思います。学校教育では、今後は子どもたちに「教える」だけでなく、「考えてもらう」教育も必要になってきます。端的に言うと、課題解決型学習です。「この山をどのように守ろう」という課題について子どもと一緒に考えて学習する機会をもつことは、学校にとってもメリットがあります。このようなことは、どんどん学校と連携を図っていただきたいです。

事務局（青少年課）

委員ご質問の内容に関連しまして、自然の保全に関する施策ではありませんが、大畑山青少年野外活動センター（アクトランドYAO）では、様々な団体が学校や地域、例えば南高安小学校区などと連携して、子どもが自然体験をする活動を行っています。また、大畑山青少年野外活動センターは、こども会の活動であるジュニアリーダー養成研修として防災で役立つプログラムを作っており、薪を使ったり、お風呂を沸かししたりするなどの体験を行なっています。このように、各団体が工夫して、大畑山青少年野外活動センターを活用しながら自然体験を行なっています。

川崎委員

自然の保全は難しいと思います。総合評価に「地域・企業・ボランティア団体等との連携により、高安山の植生の保全に努めました」とありますが、企業と一緒に保全活動を行った具体例はありますか。

事務局（産業政策課）

様々な企業や市民団体が入っている「環境アニメイテッドやお」を通じて取り組みを行っています。それ以外にも、企業独自の取り組みはありますが、市が関わっているのは、「環境アニメイテッドやお」を通じた取り組みです。

中田委員

少し話が逸れるかもしれませんが、ハイキングコースが課題に出ていますが、私が行ってみてよかったのは、外環状線の神立から上がっていくハイキングコースです。自然が多く古墳や花農家があり、無人で花を売っているところもありました。枝豆と若ごぼうが特産としてよく挙げられますが、花農家とのコラボレーションができればよいと思います。

事務局（産業政策課）

八尾市は枝豆と若ごぼうが有名ですが、花卉も八尾市の盛んな産業の一つです。公用車に八尾の花卉が魅力的であることをPRするマグネットタイプのシートを貼って、広く知ってもらえるように取り組んでいます。「やお80映画祭」は今年で3回目になりますが、昨年の「やお80映画祭」に、八尾の花農家が作った花を贈呈しました。私も昔から電照菊を見て育ったくらい八尾の花卉は有名なので、市の魅力の一つとして積極的に発信していきたいと思います。

農野部会長

私の実家は寺ですが、毎月八尾の花農家からお花をいただきます。日持ちもよいです。

増田委員

大阪経済法科大学に在学中なのですが、大学の池にニッポンバラタナゴが生息しています。私は和歌山県出身なので、以前は関心がなかったのですが、大学入学を機に「八尾市はどんなまちなのだろう」と思うようになりました。入学式の時に「ニッポンバラタナゴは希少な魚で、八尾市が率先して保全活動を行っている」と聞きました。実際に、大学内の池でニッポンバラタナゴを飼っています。そのように目に見えるものがあると、自然が豊かな町であることがよく分かります。小学校などの地元に密着した施設で飼育したり、それを説明するパネルがあれば、もっと身近に感じることができると思います。

轉馬委員

施策データシートでは事業の予算額がついていませんが、他の取り組みを細かく見るとハイキング道の整備やニッポンバラタナゴに関する取り組みなど関連するものもあります。

平野委員

先ほど三島委員からの質問や増田委員から紹介があったように、若い世代を対象にした取り組みを行ったり、大学との連携によって自然保全の取り組みを行ったりしています。大阪経済法科大学のため池には、ニッポンバラタナゴがたくさんいるのですが、毎年、そこに大きなカエルなどの外来種が入ってしまうので、「バラタナゴを一旦避難させて外来種をすべて取り除いてまた戻す」という活動を行っています。この活動も「環境アニメイテッドやお」と行っています。そこに企業や地域の活動家など、八尾の自然を愛して残していきたいという思いをもった方々が入って活動してくださっています。大阪経済法科大学の構内ということもあって、環境整備のときには大学生の他、小学生、中高生も呼んでいます。環境整備をするときに貝がたくさん取れるので、貝を取る大会も行っており、子どもたちが楽しみながら環境整備をするという、よい循環が生まれるイベントになっています。評価にその内容が書き切れていませんが、このようなよい動きが続けられているところも評価していただければと思います。

辛口になりますが、計算上、平均達成率が 81.4%なら★は2つになりますが、最初にご意見があったように、参加者数が減っている中で、「指標のめざす値については、概ね順調に推移している」というコメントは、この表現でよいのか疑問に思います。★二つに異論はありませんが、もっと要因を分析して、表現をしっかりと書き込むべきだと思います。

農野部会長

まだ伸びしろはあるというご指摘だと思います。★二つは妥当ということでよいですか。

全委員

異議ありません。

<施策 27>

農野部会長

ご意見、ご質問をお願いします。ジェイコムで、歴史を紹介する番組なども放送されていますが、川崎委員はいかがですか。

川崎委員

番組はバラエティ的なものなので、どこまで役割が果たしているか分かりません。指標の「文化財情報システムのアクセス件数」ですが、計画値は上がっていますが、実績値は横ばいです。アクセス件数を増やすためにどのような工夫をされていますか。

事務局（文化財課）

文化財情報システムについては、コンテンツの内容を変えたり、リンクをたくさん貼ったり、講演会やシンポジウムに資料を配布して宣伝を行うなどの工夫をしています。

川崎委員

新しい人にどんどんアクセスしてもらえるように考える必要があります。システムと紙媒体をリンクさせることは難しいですが、地道な活動が必要だと思います。

和泉副部会長

指標を3つ挙げていますが、これを見ると着々と保全が進んでいるように思います。様々なところで同じ話をするのですが、「資源の活用を考えるときには、プロセスを考えるのがよい」と主張しています。何もしなければ単なる資源ですが、市民の理解を得て本来の価値が浸透すると、資源が地域資源になり、さらに活用資源になるという資源の3段階があります。文化財課で取り組まれているのは、文化財という資源を地域に根付かせて、地域資源にする取り組みです。第6次総合計画では、そこから次のステップである活用資源に

するために、具体的に考えることが必要です。その中の1つの取り組みとして、由義寺跡の発見に伴って庁内検討会議が開催されています。私も一度参加しましたが、文化財課だけでなく様々な事業課が関わって皆で1つのことを考えており、画期的な会議となっています。由義寺を大事にする熱い思いを感じました。文化財はニッチな層に受けがよいものですが、文化財に関心のない人もファン層として取り込む見通しができるものを、第6次総合計画で示すことができればと思います。

三島委員

私は八尾市で育っていないのですが、現在、研究室の活動で八尾市の子どもたちと関わり、その中で小学生のときに遠足で古墳に行ったという話を聞きました。小中学校の子どもには、そのような歴史資産を勉強する機会があると思いますが、私のように大学生になってから八尾に来る人は、興味があっても自分で調べる人以外は、歴史に触れる機会が少ないです。高校や大学進学以降に八尾に来る若者層にも、歴史に触れる機会があればよいと思います。

増田委員

私は大学に入学後地元の地域活性化をしたいと思い、地域資源に着目して地元と八尾市を比較する研究を行ってきました。その中で、八尾市は歴史に関する説明が非常に詳しいと感じました。説明用のDVDがあったり、その人たちが生きていたことを想定して家を保全して展示したりしていますが、他の地域ではそこまで詳しいものはないと思います。八尾市はとてもまめに整備していますが、見に行く人が少ないと思います。

指標の「文化財保全・活用に関する市民ボランティアの登録者数」は、数だけでなく、年齢層など、具体的にどのような人がボランティア活動をしているのかが気になりました。私もまちの活性化に興味がありますが、そのような活動があれば登録したいと思っている若者がいると思います。どのような年齢層の人が多いかを把握して、少ない年齢層にターゲットを絞って直接アピールする機会を作れば、もっと増えると思います。

農野部会長

ボランティア登録者の年齢層は分かれますか。

事務局（文化財課）

本市で活動をお願いしているボランティアは大きく分けて2つあります。まず市史編纂のボランティアです。調査に一緒に行ってもらったり、古文書の整理を行っています。もう一つは高安千塚古墳群の現状を一緒に見て回ってパトロールをしたり、古墳の清掃をするボランティアです。それらがこの指標のボランティアです。年齢層は50歳以上の方が中心で、若い人も若干おられます。また、八尾市は4つの文化財施設があり、各文化財施設

のボランティアが運営やその施設の研究活動などを行っていますが、その数値はこの指標に含まれていません。

農野部会長

なぜ含まれていないのでしょうか。

事務局（文化財課）

文化財施設は現在指定管理者制度で運営しているため、本市が行う事業とは区分けして考えています。

農野部会長

指定管理は、市の事業としてカウントしてもよいように思います。市民にどんどん参加していただきたいため、そのような数字も入れて膨らませてもよいと思います。

中田委員

先ほど、増田委員から八尾市の歴史資産活用の話を聞くことができました。私もずっと八尾市にいますが、私の中では八尾市の資源がばらばらで、結び付いていません。活用されていると思いますし、以前に比べると様々な施設が増えたと思います。ＪＲ八尾駅前の旧植田家住宅やしおんじやま古墳など、私が子どもの頃に比べると整備が進んでいますが、スポットスポットになっていて、つながっていないイメージがあります。ずっと八尾市に住んでいる住民として、遠足でもそうですが、行先として選ばれにくい印象をもっています。

平野委員

八尾市は多くの歴史資産があるので、「もっと魅力として活用すべき」とよく言われます。特に昨年出てきた由義寺跡は、歴史上重要なものです。平城京の副都のようなものではないかということで、歴史的な意義が認められています。国史跡指定には通常数年かけて手続きを行います。文化庁が１年で指定するほど由義寺跡は相当大きな発見であり、改めて歴史資産を活用することを前面に出して考えようとしています。

先日も歴史物の漫画を描いておられるマンガ家の里中満智子さんに来ていただき、由義寺跡や弓削道鏡の話をしていただきました。そのような中で、八尾市の歴史資産を資源として見てくださる市民が少しずつ増えてきており、もっとこのようなことを積み上げていく必要があると思っています。「施設はあっても人が集まっていない」というのはその通りで、今後は市民に、歴史資源を自分たちのまちの魅力としてとらえてもらえるようにすることが必要です。由義寺跡には歴史的な意味があるため、小学生向けの分かりやすい冊子を作っています。現在市史編纂の事業が行われており、八尾の歴史を物語にして、入門編

として身近に感じてもらえる読みやすいものにするなどの地道な活動を行っていますが、もっと見えにくい部分を打破しなければなりません。先ほど和泉委員からご意見のあった庁内検討委員会もあり、市民に集まっていただいて由義寺跡をどのように活かしていくかを検討したりしています。その中では、観光資源として活用したいという考えも出ています。第6次総合計画では、その辺りも少し謳えればと面白いと思います。

農野部会長

文化財は貴重な財産なので、活用資源となるよう様々な角度から文化財を見て関わっていただき、知っていただく仕組みを進めていく必要があるというご意見です。★2つでよいでしょうか。

全委員

異議ありません。

農野部会長

総合評価は妥当と判断します。

<施策 28>

農野部会長

ご意見、ご質問をお願いします。

和泉委員

「市民1人当たりの年間の図書の貸出点数」を指標にしていますが、このように高いハードルの指標を設定しなくてもよいと思います。一人が年間10冊借りるより、3人が1冊ずつ借りたほうが意義があります。図書館に来て本を読む人も多いため、本を借りるだけでなく中で本を読む人にも注目して、図書館の来館者数を指標にすれば、もっとよい数値になると思います。私も活動する中で図書館に行くことが多いですが、多くの人が利用しています。★の数に異論があるわけではないのですが、もっとハードルの低い指標でもよいと思います。図書館の来館者数はカウントしにくく、来館者がすべて本を読んでいるわけではないため難しいかもしれませんが、そのように思いました。

事務局（生涯学習スポーツ課）

「市民1人当たりの年間の図書の貸出点数」は全国の図書館の共通的な指標の1つになっています。ただしご指摘のように、図書館は本を借りるだけではなく、中で本に親しんだり調べものをしたり、様々な人と交流を図る場になるなど、図書館の役割が増えていることを認識しています。そのため、貸出点数だけにこだわるのではなく、市内の各図書館

では入館者数をカウントできるようにしています。今後は、図書館の中でどのくらい時間を過ごしているかなども、指標として検討したいと思います。

農野部会長

文部科学省のホームページを見ると、公共図書館には、課題解決型図書館という、地域の課題解決力向上に貢献する役割が求められています。市民がどのような情報を求めて利用しているかなどが、今後の図書館に求められます。今後の公共図書館には、「このような情報を市民に提供した」、「このような情報の問い合わせがあった」、「このような情報が検索された」などのレファレンスデータの充実が、役割として求められます。司書の人ウェブ情報や商用のデータベース、視聴覚資料、郷土資料、行政資料などの情報を横串にして、レファレンスの事例をデータベースに入れることで、図書館が知の拠点となり、市民がそこに問い合わせをして、それがさらに蓄積されていくというイメージです。文部科学省は、公共図書館にそのようなことで地域の課題解決力向上に貢献する役割を求めていくという報告書が出ています。そのため、様々な角度で評価していただければと思います。

三島委員

少し論点がずれるかもしれませんが、現在研究室の活動で、生涯学習スポーツ課の「若者活躍場づくり事業」に関わっています。他のボランティアサークルでも、そのような事業を活用して、八尾市の子どもたちに向けて生涯学習を行っています。そのような、大学生や外部の団体を巻き込んで生涯学習を行う施策があつて、それが指標になっていけば、もっと幅が広がると思います。

増田委員

以前、私は八尾市まちづくり教室で、久宝寺の龍華地区の取り組みに参加したことがあります。当時は龍華図書館ができたばかりで内部を見学することができました。その時は、小さい子どもも参加していましたが、部屋が多く充実していて、すごい施設ができたと思いました。自分の研究には本が重要なため、八尾市内の他の図書館にも行って大変活用させてもらっていますが、私たちの世代で言えば、アリオ八尾のフードコートで勉強している高校生をよく見かけます。せっかくこれだけの施設があつて、勉強できる環境が整っているにも関わらず、なぜ中高生や大学生は商業施設のフードコートで勉強しているのだろうと思います。その人たちが、図書館で1つの机を囲んで本を読んだり、友達と話しながら勉強できたりすれば、他の世代との交流にもつながり、もっと本に親しんで施設に関心を向けるのではと思います。そのきっかけになるもの考えるのもよいと思います。

中田委員

生涯学習のターゲットは誰かという点は置いておき、増田委員のご意見の追加として述

べます。増田委員から学生目線でのご意見が出ましたが、私たちの世代にとっても、「仕事の調べものをしたい」、「ものを書きたい」、「専門職の勉強をしたい」と思ったときに、使える施設がありません。八尾市役所前の図書館は自習室が狭いので、いつ行っても満員です。以前、八尾市教育センターにあった自習室も、中年層には使いにくいものでした。若者だけでなく、主婦層や働いている人も勉強に使いやすいスペースがないのが現状で、カフェや図書館のソファでこっそり書きものをしているのを目にします。

水野委員

今後の話になりますが、大学図書館は、現在ラーニング・コモンズのような「しゃべることのできる閲覧室」が1つの流れになっています。稼働率を上げるとなるとそのような話が出てきますが、管理が大変です。リノアスの1階にできたカフェと本屋はいつも満員ですが、本を読みながらカフェも楽しめる場ができると、どうしてもそちらに人が流れます。私も、「どこか仕事ができる場所はないか」といつも思っており、今の議論を聞いて、勉強や調べものができる場があればよいと思いました。本を読むだけではなく、調べものをしたりコミュニティ活動につなげるなどの、図書館の将来的な方向性に関して、図書館内の滞在者数などの指標を設定して積み重ねることは、1つの可能性としてよいと思います。

事務局（生涯学習スポーツ課）

八尾図書館には、1人で黙って勉強する部屋を45人分用意しています。さらに、土日やこの季節には多くの人々が来館するため、他の会議室や3階の集会室も開放して最大150人利用できるようにしています。3階の学習室の北側の端は個室になっており、ホワイトボードを設置してグループ学習室としています。個人ではなく、複数人が集まって話しながら勉強することができます。過去に中学生が宿題を持ち寄って議論しながら勉強したり、複数のグループが交流を行った例がありました。図書館も時代の流れに合わせて見直して発展させていきたいと思っています。

農野部会長

★2つでよいでしょうか。

全委員

異議ありません。

農野部会長

総合評価は妥当と判断します。

＜施策 29＞

農野部会長

ご意見、ご質問をお願いします。

和泉委員

「国際交流と国内交流」は取り組みが始まっており、先ほど述べた由義寺跡関連では、道鏡でつながりのある宇佐市と交流を行っていると聞きます。交流の観点では、ニッポンバラタナゴなどの絶滅危惧種というコンテンツで様々な地域とつながるなど、コンテンツでつながりを考えると世代を広く設定することができます。語学だけでは若者だけになってしまっていますが、八尾の特徴的なコンテンツで交流を考えれば、面白い展開ができると思います。

川崎委員

「国際交流と国内交流」ということですが、国内の交流は難しいように思います。国内のどのあたりの交流が動いているのか、具体的なものがあれば教えてください。

事務局（文化国際課）

国内交流では、大分県宇佐市、岡山県和気町、和歌山県新宮市、奈良県五條市などと縁があって交流を行っています。八尾市制施行 70 周年記念事業として他課とも連携しながら、先ほど話題に出た道鏡のつながりで宇佐市の宇佐神宮、和気清麻呂の関係で和気町との交流を進めています。世代のつながりの観点では、若い世代に関しては奈良県五條市と吹奏楽や太鼓の交流を行っています。八尾の魅力として枝豆を和気町でPRし、和気町のフルーツや宇佐市の唐揚げを八尾で販売してもらうなど、お互いの魅力発信にも努めています。

農野部会長

指標の「国際交流センター事業参加者数」はずっと 100%で推移しています。

三島委員

現在研究室の活動で、居場所事業を行っています。その中で保護者から、近畿大学に最近国際学部ができたため、「近畿大学国際学部の留学生と子どもたちの交流を行って、ネイティブに関する教育ができないか」という要望を受けました。私個人は国際学部とつながりがないのでできていませんが、教育の中に小学生と外国人との交流があれば、子どもたちの英語や外国に対する関心が増えるのではと思います。教育面で、国際交流を取り入れていることが分かる指標があればよいと思います。

事務局（文化国際課）

先ほど話題にあったような居場所づくりの事業などを行っています。国際交流センターでは、多くの人にボランティアとして登録してもらって交流してもらうことを大きな事業としています。例えば、外国人市民との交流として、日本人ボランティアが外国人市民に日本語を教えたり、外国人がボランティアになって子どもと交流を行うなどの事業を行っています。雨で大きなイベントが中止になると参加者数は減るため、指標の「国際交流センター事業参加者数」は多少減少していますが、概ね達成しています。

英語教育の話が出たので現状を報告します。AETとしてネイティブの方々を小中学校に週1回もしくは2週間に1回配置しています。国際交流については、大阪経済法科大学や近畿大学もそうですが、ネイティブの方に各学校にボランティアとして入っていただいています。ただし、ボランティアは継続的に入っていただくことが課題となっています。

農野部会長

日本に住む外国人が増える中、国内における国際交流として、日本に住む外国人が国際交流センターをどのくらい利用できるか、利用しているかに関心があります。国際交流と言うと、ツーリストや招聘された人に目が行きがちですが、実際には、足元では外国文化をもつ方々が暮らしています。これについて担当からコメントがあればお願いします。

事務局（文化国際課）

八尾市で暮らす外国人への支援ということですが、マンツーマンで交流しながら日本語を学んでいただく事業を行っており、年間157組が利用しています。また、相談事業も行っています。国際交流センターのボランティア登録者数は347人で、その方々に活躍していただきながら、事業を進めています。外国人と日本人の交流事業として、バーベキューパーティや異文化に関する講演会などを開催して親睦を深めていただいています。

轉馬委員

施策評価シートでは姉妹都市や友好都市との交流に関する記述が多く、先ほどから議論になっている草の根の交流の話が出てきません。第6次総合計画に向けては、その辺りも強く出すほうがよいと思います。

増田委員

取り組みはどのように報告されているのでしょうか。指標で参加者数は分かりますが、活動の中身の発信はどうなっているのだろうと疑問に思いました。SNSなど海外の人の目にも触れる形で活動内容が発信されれば、もっと交流の機会が増えると思います。「場がある」というだけでなく、その場に人を取り込むようなことがあればよいと思います。

事務局（文化国際課）

国際交流に関しては市のホームページでも発信しています。国際交流センターは様々な事業を行っていますが、フェイスブックで発信したり、月1回発行する国際交流センターの機関誌を各出張所に置いて発信したりしています。ただしご指摘のように、発信の工夫はこれからも必要と思っており、今後検討したいと思います。

農野部会長

「具体的取り組みについての総括」に、「今後は、国際交流センターや民間団体等とも連携して事業を進め交流の幅を広げて行きます」とあるように、民間団体との連携や草の根の取り組みをもっと拾い上げて評価していただきたいと思います。★2つでよいでしょうか。

全委員

異議ありません。

農野部会長

総合評価は妥当と判断します。

<施策 30>

農野部会長

ご意見、ご質問をお願いします。

川崎委員

芸術文化と言うと敷居が高いと感じる市民が多いと思います。ここで取り上げている吹奏楽はかなり市民に浸透しており、吹奏楽部に入っている学生は興味を持っていると思いますが、もっと一般的に、運動部など吹奏楽部以外の中高生や、部活動をしていない人も芸術文化に触れられるように敷居を低くして、さらに、その場を市民会館だけでなく、もっと細かい場所で触れられるようにするなど、すそ野を広げることが芸術文化の振興において大事です。指標の「日常生活において音楽、映画、演劇、美術などの芸術文化に親しんで心の豊かさを感じる時がある市民の割合」が下がっていますが、この数値のすそ野を広げるという意味で、ロックバンドやレゲエなども芸術文化として対象範囲を広げることによって、指標の数値が向上することにつながると思います。

農野部会長

子どもが作った映画の映画祭など素晴らしい活動を行っています。文化芸術と言うと敷居が高いですが、多様な世代の方々が、自分の楽しみの中で広げていけるようになればというご意見です。平成27年からアウトリーチ事業として吹奏楽に携わる方々が様々な所に

出向いておられ、素晴らしいことだと思っています。

和泉委員

川崎委員のご意見と重複しますが、音楽を聞いたり映画や演劇を見たりするだけでなく、自分自身も芸術文化に関わることにつながる施策展開ができればよいと思います。

増田委員

八尾に住んで5年になりますが、音楽が溢れたまちだと思っています。駅でもプリズムホールの催しのチラシをよく見かけます。八尾市出身の俳優やアーティストも多く、芸術が根づいているまちだと思っています。しかしながら、「わざわざプリズムホールに行かなければ見ることができない、聞けない」という思いもあります。先日京都に行ったときに、小さい駅の構内で音楽が演奏されていて、そのような生活の中のふとしたところに音楽があるのはよいと思いました。八尾市は交通の便がよくて人が集まりやすいため、身近な場所でちょっとした演奏会があれば、市民がもっと音楽に親しめると思います。急いで駅に行こうと思っているときでも、音楽があればほっこりした気持ちになります。また、大学の演劇部の友人が、「会館を借りるのに敷居が高過ぎて、借りることができない」と言っていました。そのような若者も借りることができるように間口を広げていただきたいと思います。

農野部会長

掘り起しができる資源が眠っているというご指摘だと思います。八尾市には、市民が作る吹奏楽や演劇の団体などがありますか。

事務局（文化国際課）

芸術文化の中心になっているのは、八尾市文化会館プリズムホールで行っている催しです。もっとも大きいのは八尾市吹奏楽フェスティバルで、実行委員会形式で開催され小中学校や社会人のバンドなどが集まります。1,400人くらいしか入らないホールですが、お客様が入れ替わり立ち代わり来てくださり1日で2,000人以上が来られる事業もあります。演劇も、民間でされているものがあります。そのようなものは無料公演がほとんどで、皆様に親しんでいただいています。先ほどアウトリーチ事業として話していただきましたが、文化会館で演奏するもっとも大きなオーケストラとして、毎年大阪フィルハーモニー交響楽団に来ていただいています。プロの交響楽団の方に小中学校に行ってください、バイオリンに触ったこともないような子どもたちに教えたり、吹奏楽の指導をしてもらったりしており、八尾市立病院でも演奏しています。

農野部会長

病院で音楽が流れてくるのはよいと思います。文化会館を利用した芸術文化活動では、各団体の活動内容にも注視していただければと思います。最近フラダンスのグループもあるかもしれません。中には、練習の場を探しているところがあるかもしれません。市民活動のすそ野を広げる広報を行うのもよいです。せっかく練習するなら発表する機会もあるほうがよいと思います。

事務局（文化国際課）

年に1回、3日間かけて行う八尾市文化芸術芸能祭という大きなイベントがあります。フラダンスやバレエなど、生涯学習を行っている方々が自分たちの活動を発表する場として開催しています。

平野委員

先ほど川崎委員からご意見がありましたが、芸術文化と言っても、ここで書かれているものは文化会館だけの話になっていて、八尾市全体を見ると狭いです。総合評価に「第2次八尾市芸術文化振興プランの推進に向けて」と記載があるように、第2次八尾市芸術文化振興プランでは、文化会館を拠点に位置づけながら、市内全域で様々な活動を行うこととしています。増田委員が言われたように、市内全域で行われている音楽や絵画、花、ダンスなどの活動がどんどん活発になっていくことが、施策30のめざす暮らしの姿である「芸術文化との関わりの中で、心豊かな暮らしが創造されています」という状態だと思います。日常的に文化に触れながら、自分たちも活動したり見たりすることが継続的に展開されるような施策を打つべきです。現在市内では、文化会館の改修に向けて様々な議論がなされているため、文化会館に特化した記述になっていますが、市民活動がどのようになっているかを社会情勢の変化などに書き込むべきであり、今後の課題としてもしっかりとらえていくべきだと思います。

農野部会長

40年以上前になりますが、近鉄河内山本駅の改札にあるガラスケースの中に、ずっと生け花が活けてあったことをふと思い出しました。誰が活けていたのかは知らないのですが、今でも続けておられるとしたら、すごいことだと思います。野に咲く花のように通る人の目に触れるという印象で、様々なところでそのようなことを展開している人もおられるのだらうと思いました。

★2つの評価で、しっかり頑張っているものの、まだ伸びる余地があるということだと思います。キーとなるのは「草の根活動をどのように施策の中に反映するか」、「展開する上でどのようにしてパートナーシップとして協力していただくか」だと思います。★2つでよいでしょうか。

全委員

異議ありません。

農野部会長

総合評価は妥当と判断します。

<施策 31>

農野部会長

ご意見、ご質問をお願いします。

事務局（生涯学習スポーツ課）

（追加資料説明）

農野部会長

小学校なわとび検定について、どのようなことをされているのか、もう少し詳しく教えてください。

事務局（生涯学習スポーツ課）

大阪府の検定もありますが、八尾市ではなわとび検定を 10 級から 3 段、2 段、名人までの 10 段階としています。「前跳びを 10 回」という 10 級から始まり、名人のもっとも難しい「三重跳びを連続 30 回」、「後ろ三重クロス跳びを 10 回連続」などかなり難関なものまでランクがありますが、毎年名人が 3～4 人出ています。府下でも八尾市の子どもは、なわとびの技術が高いレベルにあります。

平野委員

他の施策にも関わりますが、今年 10 月に八尾市は健康まちづくり宣言を行い、その中で、スポーツ・レクリエーションを身近に触れて楽しむことを重視しています。健康づくりという旗揚げをして関わると、自分に相当負荷がかかってしんどくなってやめてしまうこともあります。皆で楽しくサッカーゲームをするなどで、スポーツに関わる人口を増やすことが、健康づくりにもつながります。第 6 次総合計画に向けては、健康まちづくり宣言を行った八尾市として、このような取り組みをもう少し強化したいと思います。スポーツは活発にやっておられ、散歩する人も多いのですが、指標はかなり積極的にスポーツをしている人をイメージされるように思えます。日常的な軽い運動からスタートできる指標があればありがたいです。

なわとび検定は、各小学校で休み時間になわとびをするなど一生懸命取り組んでおり、その中から名人が出てきています。よい取り組みだと思います。

和泉委員

ただ今の平野委員のご意見にかぶせるようですが、スポーツと言うとハードルを高く感じる人もいると思うため、本日の議論にも出てきた自然資源に親しむことやハイキングなど様々なものと融合させて、スポーツやレクリエーションの取り組みを考えるのがよいと思います。

農野部会長

以前、御堂筋パレードが行われていた時に、小学生たちが一輪車で中之島からなんばまで御堂筋を隊列をなしてパレードしているのを見て、「すごい。気持ちいいだろうな」と思ったことがあります。なわとび名人の子どもがどんな技を見せるのかを実際に見てみたいと思いました。

総合評価が★1つなのは寂しい気はしますが、平均達成率 75.2%というのが厳しいところです。川沿いにジョギングをする人をよく見かけますが、気軽に運動できるものをどんどん掘り起こしていただければと思います。大阪府の管理だと思いますが、藤井寺辺りの石川沿いに、背筋を伸ばすなどの健康遊具を設置した公園がいくつかできており、使い方も書いてあります。車で昼間しかそこを通らないので、どんな人がどのくらい利用しているのかが分かりませんが、このような公園もあるのだと思って見えています。そのような気軽に運動できる場所から大きなイベントまで仕掛けを作って、どのような指標が妥当か開発していただきたいと思います。

川崎委員

本日も朝、会社のフットサル大会に出してきました。私の会社は 30～40 代の社員が中心的な世代になっています。若い世代に「運動をしているか」と聞くと、やっている人は大きく 2 つに分かれます。1 つはマラソン、もう 1 つは自転車やロードバイクです。私の会社も今年から健康経営宣言をしており、まずは社員の健康を重視しています。企業の動きとしては、社員に無理に運動させるのではなく、運動を推進する立場として、社員がスポーツに割く時間をバックアップするなどが考えられます。役所もそうですが、企業は健康を意識して社員に働きかけを行うことが大事であり、それが取り組みの 1 つのきっかけになると思います。それが広がればこの指標も上がっていくと思います。

農野部会長

クラブチームをもっている企業が地域の子どもに開放しているケースもあると思います。企業が行う社員も巻き込んだスポーツも視野に入れば、もっと面白いものが出てくると思います。

川崎委員

マラソンは特に用意するものがなく人数が集まりやすいので、「会社でまとまってマラソン大会に出よう」という働きかけもよいと思います。「同じTシャツを作って一緒に走ろう」というのも、盛り上がる1つになります。

中田委員

私は40代で仕事も子育てもしているので、なかなか自分で定期的に体を動かす機会がなく、今はスポーツは見るほうに特化しています。評価シートにラグビーのワールドカップの文言がありますが、東大阪市花園ラグビー場が改築されてきれいになり、最新の設備が設置されています。先日もNHKのドラマの撮影現場に使われていましたし、そのような近隣とのコラボレーションによって、子どもたちが今まで身近に感じていなかったスポーツに親しめる機会ができればよいと思います。何年か前にオリックス・バファローズが八尾市の小学生に京セラドーム大阪の無料チケットを配っていて、私も見に行ったことがあります。そのような、あまりお金をかけずに、八尾市以外ともコラボレーションしながら気軽にスポーツに親しむ機会があればよいと思います。

農野部会長

高齢福祉部門では、高齢者の介護予防として百歳体操を行っています。介護予防のためではありますが、これも市民のスポーツ・レクリエーションになります。椅子に座ったままエクササイズをしたり、杖を使ったノルディックウォーキングを行うなど、それぞれの年齢や体の可動域に応じた運動をしています。福祉部門が行う、高齢者のための転倒予防や介護予防などの筋力アップの取り組みも、市民から見ればスポーツ・レクリエーションの範疇になります。担当部署が異なるかもしれませんが、コラボレーションしてそのような指標も取り入れてもよいと思います。スポーツ・レクリエーションと言うと、若者のイメージになりがちですが、実際は高齢者もそのような運動をしています。

事務局（生涯学習スポーツ課）

高齢者を対象にしたスポーツでは、福祉部門を中心に「河内音頭健康体操」をしています。高齢者が河内音頭を踊りながら気軽に健康体操ができるというものです。また、生涯学習の観点から認知症予防として、じゃんけんを後出しして負けるというゲーム大会を行っています。スポーツ・レクリエーションと生涯学習を兼ね合わせた取り組みの中で、高齢者も参加しやすい場面を作っています。

農野部会長

指導者の資源も、福祉部門でもっているかもしれません。既に行っている取り組みもあると思いますが、複数の部署がコラボレーションして効果を上げることも視野に入れてい

ただければと思います。

増田委員

私は「やお若者会議」にも参加しています。そこで大人の運動会を発表したところ、それが後輩の運営で実施されることになり、私も参加しました。私たちの世代は、そのようなサークル感覚で運動できるのがよいです。また、大阪府内の若者世代が地域に関係なく入れるフットサルのチームに参加していますが、19歳の大学生から40代の人まで参加していて、世代間の交流もできます。スポーツは健康面もありますが、世代間交流としても大事になっていきます。もっと気軽に参加できるものと考えていただければと思います。

農野部会長

よくやっていただいておりますが、残念ながら★1つです。第6次総合計画の策定に向けて指標や評価方法の見直しをお願いします。

これで施策19から31まで終わりました。前回の意見も含めて、何かご意見はありますか。

全委員

特にありません。

農野部会長

それではすべての施策と総合評価にご意見をいただきました。この部会はおかげさまで施策数が少なかったこともあり、余裕をもって議論をすることができました。

事務局

ありがとうございました。未来・魅力部会は今回が最終です。これまでの部会の議論を整理するため、部会長・副部会長会議を、平成31年1月22日（火）10時00分から商工会議所の会議室で開催します。改めてご案内を出させていただきますが、部会長・副部会長の皆様にはご出席をよろしくお願いいたします。八尾市総合計画審議会の第2回全体会は平成31年3月15日（金）に開催する予定です。恐らく18時30分の開催になると思いますが、改めてご案内を出させていただきます。ここでは、諮問に対する答申内容を確定したいと思いますので、委員の皆様にはご出席をよろしくお願いいたします。最終的には、3月末くらいに八尾市長に対して答申いただければと考えています。本日の議事録（案）を送付しますので修正を加えてお返しいただければと思います。期日は送付時にご連絡します。

農野部会長

本日の会議のご意見は議事録でご確認ください。遅い時間の開催でしたが活発に議論い

いただきありがとうございました。様々なご意見をいただき、有意義な議論ができたと思います。これで審議を終わります。

3. 閉会

事務局

これで、八尾市総合計画審議会 第2回未来・魅力部会を終了します。

以上